

Advisers' viewpoint

県内小・中学校に今後の取組の参考となるものを届けることをねらいとして「アドバイザーズ・ビューポイント」を作成しています。今号では、第1回学校訪問で見られた学校の組織的な取組について、学校経営アドバイザーの視点で紹介します。

Adviser's viewpoint



©岡山県「ももっちゃん」

中学校では、「教科の壁」を理由に授業改善が十分に進まない現状がある中で、**生徒の声に基づいて教師自身の授業を振り返ることで授業改善に取り組もうとする学校**があります。全国や県の学習状況調査では分からない社会科や実技教科など、全教科の授業アンケートを行います。アンケートのフィードバックは、職員会議で全体の傾向を示す学校や教科ごとの結果を示す学校、全教科担任の氏名も結果とともに示す学校など様々です。教員の意欲を高めるとともに、生徒が主体的に学ぶ授業づくりを全教員で組織的に進める上で有効な取組です。

① 学校経営アクションプラン（以下、AP）の概要

- ・本校の<知>に関する【現状】は、まだまだ教師主導の授業が多く、生徒が学習に対して受け身の姿が見られる。
- ・今年度のAPの【達成目標】は、「目的や目標をもち、**自ら学ぼうと主体的に取り組む生徒の割合を増やす。**」
- ・目指す生徒像に近づけるため、【重点的取組】の一つに、「**授業アンケートの実施**により、授業5(ファイブ)等に関する生徒の率直な声を聞くことを通して、授業改善に取り組む。」という内容を設定した。
- ・【取組指標】は、「授業5(ファイブ)等に関する各項目の肯定率が80%を超える。」【検証方法】は、年間2回行う生徒による教科別の授業アンケート。



② 重点的取組の実際

〇〇中学校 R4年度1学期 授業アンケート集計表 (各クラスごと)

学年・組	担当	教科	質問項目(全教科共通)	1	2	3	4
〇年 〇組	〇〇	〇〇	授業は分かりやすい。	27.7	44.7	14.9	12.8
			授業のめあて(その時間に習得すべき内容)が示されている。	59.6	23.4	8.6	8.5
			課題解決に向けて、自分で考えたり表現したりする場面がある。	74.5	23.4	2.1	0.0
			ペアやグループで自分の考えを広げたり深めたりする場面がある。	48.9	21.3	14.9	14.9
			学習内容を実践する(試技、問題演習など)場面がある。	63.8	29.8	4.3	2.1
			授業内容の振り返りがある。	23.4	25.5	23.4	27.7

※ アンケートは、端末を活用して実施。集計も容易。
 ※ 上記に加え、「あなたにとってよくわかる授業とはどんな授業ですか」「分かりにくい授業とはどんな授業ですか」という記述式の問いも付加し、全校生徒分をまとめて教員に配付している。

- 1 当てはまる
- 2 どちらかと言えば当てはまる
- 3 どちらかと言えば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

同様の取組を行っている他校の校長の思い

授業改善を進める際に、これまでは、管理職による授業参観や同僚による相互参観後のフィードバック等、指導者側の視点でなされることが多かったが、授業を実際に受けている生徒の生の声を授業改善に生かしたかった。

「授業アンケート」としてはいるが、実質上、生徒による教員の「授業評価」の側面も設け、教員の授業改善への意欲付けにしたい思いがあった。

生徒から、自分の授業のフィードバックを得ることで、より一層生徒の側に立った授業、生徒が主体的に学ぶ授業に改善されることを期待している。

教職員には、全体の結果を職員会議で示すとともに、個々の結果は、中間面談や最終面談の際に提示し、結果について話し合うようにしている。



成果と課題:授業アンケートの結果を真摯に受け止め、自分の授業を改善しようという空気が学校全体にできてきた。従来の教え込みの授業ではなく、生徒を学びの主体にするにはどうすればよいかを考える教員が増えてきた。アンケート結果を受けて「2学期からはこういう授業をします。」と授業改革宣言を生徒に対して行う教員も出てくるなど、予想以上の効果があった。今後は、「**分かる授業」「楽しい授業」にするためにはどのような態度で授業に臨めばよいのかを生徒たちにも考えさせ、生徒も巻き込んで授業改善の動きを作りたい。**